

**山鳥坂ダム環境検討委員会**  
**第2回動植物の保全に関する専門部会（平成19年8月30日実施）**  
**における指摘対応**

平成19年8月30日に実施された「山鳥坂ダム環境検討委員会 動植物の保全に関する専門部会」における指摘事項及びその対応を以下に示す。

No.	指摘事項	対応
<b>1. 直近の移植計画の方針</b>		
1	・コシロネについては、難しい種ではないので、移植実験を行わなくても、仮移植としたらどうか。	・湿性圃場への仮移植とした。
<b>2. 直近の移植計画対象種の生育状況調査結果</b>		
2	・アカソについては実物で確認をしたい。	・アカソについては現地で実物を確認いただいた。その結果、アカソと同定できる個体の生育を確認できていない。生育の可能性は低いと考えられるが、今夏に補足調査を実施し、生育の有無を判断する。
3	・現地で確認されているコシロネについては、建設発生土処理場予定地の水田の周辺に生育しているものは間違いないと思うが、放棄水田の中央にあるものは倒伏していて、ヒメサルダヒコに似るが、全形が大形であり、実物で確認をしたい。	・コシロネの生育について実物で確認いただき、水田の中央に生育しているものもコシロネとして、移植の対象とし、仮移植を実施した。
<b>3. 圃場適性評価、圃場整備計画</b>		
4	・ゴマギは現在の生育地は、他種との関係で成立しているものであり、適地とは限らないので、増殖地は現状の環境にこだわらず、日照等の生育環境を良くしても良い。	・日照条件については、移植適地の選定条件としてこだわらないこととする。
5	・ムヨウラン及びウスギムヨウランの移植実験での、林相転換は難しいので、土壌条件や水分条件を整えることを第一に検討した方が良いのではないかと。	・再度、市有林を詳細に踏査した結果、林相転換しなくとも、ムヨウラン類の生育環境として適していると考えられる常緑広葉樹林（ツブラジイ林）を確認したため、移植実験対象地とすることとした。
6	・移植に関するデータについては、全て残しておくべきである。	・移植に関するデータは記録を残す。
<b>4. 移植並びに移植実験及び増殖計画</b>		
7	・コバノチョウセンエノキの移植適期は、出芽1ヶ月前の春（3月頃）が良いと考えられる。	・移植は3月に実施した。
8	・アカソについては、10月頃に種子を採取するのが良い。	・現時点では生育を確認していない。確認した場合には、種子を採取する。
9	・アカソについて、資料では「受精せずに結実」と記載されているが、出典を確認すること。	・アカソについては、無融合生殖型（受精せずに結実する）の種として文献に記載されている。出典：千葉県自然誌別編4千葉県植物誌(2003)
10	・アカソについて株分で増殖しても良いのではないかと。	・現時点では生育を確認していない。確認した場合には、株分けについても検討する。
11	・ホシクサは8月～10月が花期だと思うが、種子は継続的なので逐次種子を採取すべきである。	・種子については、逐次採取するものとする。
12	・ホシクサの表土まき出しは、8月にまいて4月に発芽するスケジュールが良いのではないかと。	・表土まきだしを実施する場合には、指摘のスケジュールでの実施を検討する。

13	・カビゴケは、生育基盤のアオキごとの移植であれば、移植適期は3月頃が良いと考えられる。	・基本は3月頃とするが、休眠期に入った秋の移植実験も検討したい。
14	・ゴマギの播種については、とりまきと翌年3月に播種するのと、2種類実施してみるのが良いと思う。	・今後、種子採取と播種について指摘通りで検討する。種子採取できない場合については、取り木による増殖も検討する。
15	・ゴマギについては、根元付近にある稚樹（苗）を移植する手法もある。	・稚樹が確認された場合には、稚樹の移植も検討する。
16	・ゴマギの播種に関しては、前処理としては、果肉をとるぐらいで良いと思う。	・種子採取の場合には、果肉採取の前処理を行う。
17	・コバノチョウセンエノキの移植の際には、灌水の際にオキシベロン等の発根促進剤の使用をしたり、乾燥防止のために寒冷紗を巻くと良い。	・移植の際には、発根促進剤を使用した。また、一部、寒冷紗を巻くこととした。
18	多年草の挿し芽については、一般論では、ロゼットをつくる多年草は、春から夏にかけて実施すると良い。	・挿し芽を実施する場合には、春から夏にかけて実施する。
19	写真の撮影時には、その種の特徴がわかる部分を記録すること。	・指摘のとおり対応する。